

Cisco Aironet 340 シリーズ ブリッジの設定

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[基本設定](#)

[コンソールの接続](#)

[IP 情報の割り当て](#)

[リモート設定](#)

[無線ネットワークの設定](#)

[設定オプション](#)

[イーサネット ネットワークの設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Aironet 340 シリーズ ブリッジを設定するプロセスについて説明します。 リモート ロケーションに装置を導入する前に、一部のタスクを完了する必要があります。他の設定作業は、ブリッジの設置後に実行できます。

注: Cisco Aironet の機器を最良の状態で作動させるために、すべてのコンポーネントにソフトウェアの最新バージョンをロードすることを推奨します。 ソフトウェア アップデートは [シスコワイヤレス ソフトウェア センター](#) で利用できます。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

この文書に記載されている情報は Cisco Aironet 340 シリーズ イーサネットブリッジに基づいています。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

基本設定

アクセスが困難な場所にブリッジを設置する前に、リモート アクセス用のブリッジを有効にするためのいくつかの基本的な設定をコンソールから完了します。

コンソールの接続

コンソールを接続するために、9 ピン メス型 コネクタに 9 ピン オス型とストレート ケーブルを使用して下さい。ブリッジのコンソールポートにコンソールポートケーブルを取り付けて下さい。コンソールケーブルのもう一方の端を終端エミュレーションプログラムを実行するターミナルまたは PC のシリアルポートに取り付け、次のパラメータにセッションを設定して下さい:

- 9600 ビット/秒 (bps)
- 8 データ ビット
- パリティなし
- 1 ストップ ビット
- Xon/Xoff フロー制御

ブリッジの電源を入れると、メイン メニューが表示されます。

IP 情報の割り当て

Telnet、HTTP、または Simple Network Management Protocol (SNMP) を使用したブリッジへのリモート アクセスを有効にするには、ブリッジに IP アドレスを割り当てる必要があります。

注: またゲートウェイアドレスまたはサブネット マスクのような他の詳しいインターネット アドレスリング オプションを、割り当てることができます。

ブリッジに IP アドレスを設定するには、次の手順に従います。

1. コンソール ポートに接続された端末から、メニュー オプションを Main > Configuration > Ident の順に選択します。**主要設定Ident**
2. IP アドレスを割り当てるために **INADDR オプション**を選択して下さい; 各ブリッジに必ず一意の IP アドレスを割り当てます。
3. INMASK オプションを使用して、インターネット サブネット マスクを定義します (該当する場合)。
4. GATEWAY オプションを使用して、ゲートウェイ アドレスを定義します (該当する場合)。

ブリッジに IP アドレスを設定したら、ターミナル エミュレータまたはブラウザを終了してコンソール ポート ケーブルを取りはずし、Telnet または Web ブラウザによるリモート設定に進みます。

リモート設定

ブリッジが IP アドレスで設定されれば、Telnet か Webブラウザを使用して接続できます。

注: 使用するために計画するデバイスが互いに近似性にある間、無線ネットワークを設定する必要

があります。これはさまざまなパラメータが設定される間、無線通信が適切に機能するようにするのを助けます。無線設備が設定されれば、インポートに入れることができます。

- Telnet プロトコルを使用する PC またはホストから接続する場合は、telnet コマンドを発行します。

`telnet IP address of the bridge`

- Web ブラウザから接続する場合は、次のように入力します。

`http://IP address of the bridge`

Webブラウザとブリッジに接続するとき、それと別のメニューシステム外観はコンソール または Telnet を使用すると。示されるオプションはそれらをタイプするかわりにブラウザを使用するとき同じ、『menu』を選択します実行オプションをですが。

無線ネットワークの設定

基本的な無線ネットワーク パラメータを、次の順序で設定する必要があります。

1. Service Set Identifier (SSID) を割り当てる。
2. 許可されたデータ レートを設定する。
3. 周波数を設定する。
4. ルート コンフィギュレーションを設定する。

注意： コンフィギュレーションを完了した後無線 パラメータを変更すれば、ユニットはユニットを通して無線交信を破壊する変更ですべての無線接続および再起動を廃棄します。従って、アクセスしにくいロケーションにブリッジをインストールする前に設定のこの一部を完了して下さい。

SSID の割り当て

SSID はブリッジがその他のデバイスと通信するようにします。無線ネットワークに送信される指定パケットに接続されるのはユニークな、大文字/小文字の区別がある識別子です。ブリッジと関連付けるノードが同じ SSID を使用する Association 要求は無視されます。

ブリッジのためのユニークな SSID を判別し、ネットワーク使用のすべてのデバイスを同じ SSID 確かめて下さい。SSID を割り当てるために、ブリッジに接続し、メニューに行き、**Main > Configuration > Radio > SSID** を選択して下さい。

SSID ウィンドウでは、**SSID オプション**の値を入力して下さい。SSID は 32 文字までである場合があり同じ無線ネットワークのすべてのデバイスは同じ SSID を使用する必要があります。This value is case sensitive.

データ レートの設定

ユニットが情報を受け取り、送信するデータ レートを定義するのに **Rates オプション**を使用して下さい。無線セルの他のユニットは思慮分別でレートの何れかでユニットにデータを送信します。ユニットがルートブリッジに関連付けるとき、データはそれら両方がサポートする最高速度のユニットの間で送信されます。ただしより低いよくあるレートを使用するために、ユニットは条件なら令状それギヤを低速側に入れるかもしれません。

データ レートを割り当てるには、ブリッジに接続してメニュー オプションを **Main > Configuration > Radio > Rates** の順に選択します。

Rates ウィンドウでは、レートの値を入力して下さい。1 比率より『More』を選択する必要があります。

あります。1 比率だけを選択し、それがどういうわけか維持することができなければ通信は失敗します。

[周波数の設定](#)

割り当てられる実周波数がユニットが使用される位置の無線周波スペクトルを制御する取締 機関によって決まります。自動で設定を残す場合、開始するとき、ユニットはすべての割り当てられた周波数が見本抽出し、使用中ではない周波数を選ぶように試みます。この設定は無線セルの設定を担当するルートユニットだけで許可されます。

周波数を設定するには、ブリッジに接続してメニュー オプションを Main > Configuration > Radio > Frequency の順に選択します。

Frequency ウィンドウで、周波数の値を入力するか、または設定を「auto」のままにします。

[ルートコンフィギュレーションの設定](#)

詳細な設定を行う前に、ブリッジがルートブリッジになるか非ルートブリッジになるかを決めます。

- ルートブリッジは上にある、または無線インフラストラクチャーの開始点、です Aironetブリッジ。ルートユニットは主要な無線バックボーンLAN に接続されます。他のブリッジのLAN からの無線交信がこのユニットを通るので、ルートユニットはほとんどのトラフィックを送受信する LAN に接続されます。
- 非ルートブリッジは遠隔かりピータブリッジと言われます。接続される無線LAN を作成するためにルートブリッジまたは別のリピータブリッジへの接続を、ブリッジドLAN の一部確立するそれはブリッジです。

イーサネットブリッジはルートでデフォルトで設定されます。リンクを確立するために非ルートブリッジに設定するには、このデフォルト設定を変更する必要があります。

デフォルト設定を変更してブリッジを非ルートブリッジにするには、ブリッジに接続してメニュー オプションを Main > Configuration > Radio の順に選択します。

Radio ウィンドウで、有効な Root モード設定に対して on または off を選択します。

- ターミナルエミュレータを使用している場合、**ルート設定**を選択して下さい。プロンプトは設定を変更することを望むかどうか尋ねます。設定をからのまたはからに**を離れて**に切り替えるために **y** を入力して下さい。
- ブラウザを使用している場合は、Allow Config Changes をクリックし、次にブリッジをルートユニットに設定する場合は On を、非ルートユニットに設定する場合は Off をクリックします。

[設定オプション](#)

以上のパラメータを設定したら、その他の設定オプションを設定できます。これは、Radio メニューから、または各種のサブメニューにアクセスして行います。

[Basic Rates](#)

基本レート オプションはルートブリッジで設定されます。基本レートは無線セルのすべてのサポートするノードが関連付けるために必要があるレートのセットです。最も低い基本レートがすべてのブロードキャストおよびマルチキャストトラフィック、またアソシエーション制御パケットを送信するのに使用されています。低率ヘルプを使用するパケットがすべてのノードによって受信される遠距離のように、それらのノードして下さい。基本レートは確認パケットが送信される最大レートを判別します。

距離

ブリッジ間の無線リンクがかなり長い場合もあるので無線の間で移動する無線場合のためにかかる時間重要になることができます。このパラメータが余分遅延を説明するのに無線プロトコルで使用されるさまざまなタイマーを調整するのに使用されています。パラメータはすべてのリピータを告げるルートブリッジでだけ入力されます。最も長い無線リンクのキロメートル (ないマイル) の数として一組のブリッジで距離を入力する必要があります。

I80211

このサブメニューは次を含む IEEE 802.11 関連のパラメータを設定することを可能にします:

- **ビーコン**— IEEE 802.11 ビーコン パケットの伝達間の時間。
- **DTIM**— 配信トラフィック表示メッセージカウント。特別な DTIM ビーコン間の正常なビーコンの数を判別します。
- **Extend**— 専用の エクステンションをいくつかの IEEE 802.11 管理パケットに追加し、他の無線ノードが最もよいブリッジに関連付けるようにします。
- **Bcast_ssid**— 空かブロードキャスト SSID を規定する場合クライアントノードが関連付けることができるかどうか制御。ブリッジの 802.11b クライアントがほしいと思わない場合、デフォルトブリッジ モードだけにそれを単に残して下さい。このようにすると、他のブリッジだけがこのデバイスと通信可能になります。ブロードキャストを消すことは関連付けから SSID なしでほとんどのユーザを防ぎます。ただし、何人かの不正なクライアントは SSID を厳密に調べ、表示することができます従ってクライアントはそして SSID を変更し、再び対応づける可能性があります。SSID は security —そのためですアクセスコントロールの簡単な手段 (方法) ではないです。
- **RTS - 最小サイズ**によって送信される パケットを判別します Ready To Send/Clear To Send (RTS/CTS) プロトコルを使用する。
- **プライバシー**— Wired Equivalent Privacy (WEP) を設定するのに使用しました。詳細については [Wired Equivalent Privacy \(WEP \) の設定](#)を参照して下さい。
- **だけネットワーク使用のシスコ 以外の 機器 encapsulation**—使用される方式と異なっているパケットのカプセル化の独自の方式が Cisco によって使用した。

Linktests

このメニューのオプションが個々のノードのシステムパフォーマンスを判別し、個々のノード無線パフォーマンスを判別するのに使用されています。利用可能なテストはシグナル強度テストおよびキャリアビジー テストが含まれています。

Extended

このサブメニューのパラメータは修正されません。ただし、いくつかの設定はある特定の状況が起るとき変更する必要があります。参照しま [Cisco Aironet 340 シリーズ ワイヤレスブリッジ](#)

(ページ 4-17 から 4-20) を詳細については[使用します](#)。

[イーサネット ネットワークの設定](#)

イーサネットポートはイーサネット設定 メニューを使用して設定されます。イーサネットポートを設定するために、ブリッジに接続し、メニューに行き、**Main > Configuration > Ethernet** を選択して下さい。Ethernet メニューでは、次のような各種オプションを設定できます。

[Active \(アクティブ \)](#)

イーサネットポート接続を有効にするか、またはディセーブルにするのに **Active オプション** を使用して下さい。アクティブのデフォルト設定はオンになっています。ブリッジのポートが使用されない筈である場合 Active オプションをディセーブルにする必要があります。これはポートにパケットをルーティングしないためにソフトウェアを知らせ、イーサネット アクティビティのためのスキャンのための処理力の使用を停止します。

注: イーサネット ポートは、他のパラメータがすべて正しく設定されるまでアクティブにしないでください。

[サイズ](#)

サイズ オプションはイーサネットインフラに出入して送信される帯の最大サイズを増加することを可能にします。この最大を超過することを可能にする独自のソフトウェアを実行しなかったら最大フレームサイズすばらしいより 1518 バイトを設定しないで下さい。そのような独自のソフトウェアを実行する場合、1518 のおよび 4096 バイト間の値を設定して下さい。

注: 電源をオフ/オンするか、diagnostics restart コマンドを使用することによってユニットが再起動されるまで、変更したパラメータは実装されません。

[ポート](#)

このパラメータが自動に設定される場合、ブリッジはケーブルのために 3 つのコネクタをまったくスキャンします。ブリッジがまたスキャンするイーサネットカードに配線されるとき、このパラメータは設定されているポートに設定する必要があります。

[確認](#)

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

[トラブルシューティング](#)

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

[関連情報](#)

- [Cisco Aironet 340 シリーズ ワイヤレス ブリッジの使用\(PDF\)](#)
- [クイック スタート ガイド : Cisco Aironet 340 シリーズ ワイヤレス ブリッジ](#)

- [Wired Equivalent Privacy \(WEP \) の設定](#)
- [ワイヤレスに関するサポート リソース](#)
- [ワイヤレス/モビリティ](#)
- [ダウンロード Wireless Software](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)